

UFO戦士ダイアポロン

【概要】

1976年（昭和51年）4月6日から同年9月28日まで、TBS系で毎週火曜 19:00 - 19:30 (JST) に放送された。全26話。
新たなシーンを加え、再編集を施した続編『UFO戦士ダイアポロンII アクションシリーズ』が、1976年（昭和51年）10月7日から1977年（昭和52年）2月24日まで、東京12チャンネル（現・テレビ東京）で毎週木曜 19:00 - 19:30 (JST) に放送された。全21話。

【解説】

『鉄人28号』以来、13年振りのエイケン制作のロボットアニメ作品である。
原作として、クレジットされている雁屋哲、土山しげるの『銀河戦士アポロン』（少年画報社『週刊少年キング』に連載）は、UFOやエネルギーハートなどを扱っており、終盤に主人公がエネルギーの力を使って巨大化するシーンがあるものの、巨大ロボットは登場しない。日本のロボットアニメで初めて、「複数の人型ロボットが合体して、1体の巨大ロボットとなる設定」を導入した。さらに、主人公が巨大ロボット体内に取り込まれた後、ロボットを鎧のように見立て、内部に嵌るように「巨大化」（または融合・一体化）する、原理不明の合体ならぬ「合身」をすることを特徴とし、その合体方法はダイアポロンを「操縦する」というよりはダイアポロンに「変身する」という言い方が正しいと言える。合身の過程をテロップで表現する演出が取り入れられた。「合身」後のダイアポロンのデザインはアメリカンフットボール選手の容姿をモチーフにしており、顔面のフェイスガード、肩から胸にかけてのプロテクター、武器がラグビー・アメフトのボールだった。UFO少年団のコスチュームも、アメフトをモチーフにしたものである。番組後期から、特撮番組『ウルトラセブン』の変身シーンに似た効果音が合身シーンに使用されている他、敵のメカ獣の鳴き声も特撮映画や特撮番組の怪獣の鳴き声が流用されている。関連玩具の売れ行きが好調だったことから、提供スポンサーのブルマックは放送延長を希望するが、TBSとの折り合いがつかず、半年で終了した。直後に制作局を東京12チャンネルに移して、1作目のフィルムをベースに敵側の設定・キャラクターと敵ロボットを変更し、新作カットを加えた『UFO戦士ダイアポロンII アクションシリーズ』が放送された。シリーズ後半は単なる再放送と変わらないエピソードもあり、予定よりも一か月早く終了した。2016年9月、放送40周年記念プロジェクトが始動し、ネット配信やフィギュアの発売が予定されている。

【ストーリー】

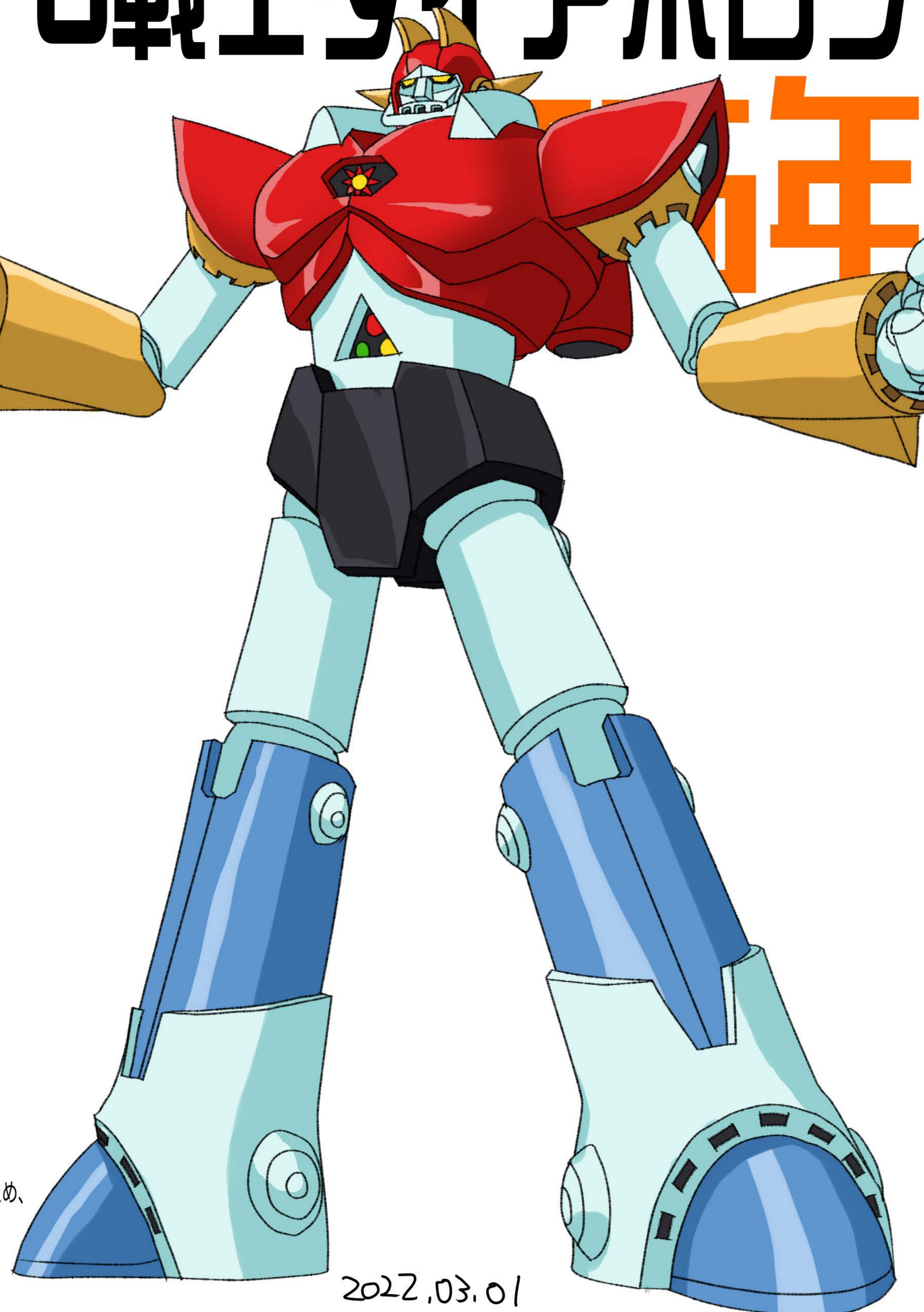
宇宙規模の強大な力を秘めたエネルギー「エネルギーハート」。それを手に入れるため、ダザーン軍団がアポロン星に攻めて来た。ダザーン軍団の大軍勢の前にはアポロン星の軍隊では歯が立たず、アポロン王国は陥落。アポロン星は滅亡した。その直前、赤ん坊のアポロン星の王子と共に脱出したラビはエネルギーハートの端末「キー・エネルギー」と共に、太陽系第3惑星の地球に逃げ込んだ。ラビは幼い王子を孤児院「あおぞら学園」に預け、彼が成長するまで身を隠し、その日を待った。タケシと名付けられた赤ん坊は成長し、16歳の誕生日を迎えた。タケシは自分がアポロン星の王子だということ、体内に宇宙規模のエネルギーを解放することができる鍵「キー・エネルギー」が埋め込まれていることをラビの口から知らされる。最初は半信半疑だったタケシはダザーン軍団の地球侵略を目の当たりにし、戦う決心をする。「キー・エネルギー」の力で、ダイアポロンに合身したタケシは、ダザーン軍団の尖兵を倒す。そして、あおぞら学園の仲間たちと共に「UFO少年団」を結成し、宇宙の危機を救うために戦うことを誓う。紆余曲折の末に、タケシはダザーン星に母親のクイーンアポロンが囚われていることを知り、母の救出に赴いた。母星の環境破壊による滅亡に苦悩した総統らが話し合いをする余裕すら失った末の暴挙であること、父親のキングアポロンはきちんと交渉されれば、ダザーン星を救うために力を貸したであろうことを理解し、ギラニクが死を賭して、母を解放させたことから「エネルギーハート」を体内の「キー・エネルギー」で起動させ、ダザーン星を浄化するのだった。

【ダイアポロン】

頭頂高 120m、重量 100t。3体のアポロンロボットが合体し誕生する巨大ロボットで、太陽光線（光エネルギー）をエネルギー源とする超動力発生装置「エネルギーハート」の端末「キー・エネルギー」で駆動する。ただし、起動させるにはキー・エネルギーを体内に持つ、タケシが合身する必要がある。合身しない状態でも、スペーススクリアーのコックピットから動かすことが可能だが、戦闘能力は大幅に減少する。ダイアポロンの合身には多大な体力を消費するため、タケシのコンディションによっては合身出来る時間が限られるときがある。腹部にはエネルギーゲージとなる黒い三角模様があり、合体後には赤、青、黄色の三色の丸いゲージが灯る。この黒い三角はエネルギーの消耗とともに減る様子が描かれており、日照がなければ、エネルギーの補充は出来ず、夜間での戦闘では窮地に陥るシーンが度々見られた。また、日食時にはエネルギーが起動できず、合身が不可能になる。そのため、その時間を狙ったダザーン軍に攻撃を仕掛けられ、タケシたちは最大のピンチを迎えることになる。戦闘開始時には口元のフェイスガードを上げることにより、エネルギー増幅装置が作動して、これを全身に充填させる。そのため、エネルギー消費時にはフェイスガードが下がる描写が見られる。合身後はタケシが鎧を着込んでいる状態に近く、漫画版での図解もその様に描写されているが、タケシがダイアポロンの体内でそのまま巨大化しているのではなく、巨大化しつつ融合しているのが正しいと言える。一体化しているため、合身中はコックピットの描写はないが、終盤は専用のコックピットと思われる場所から、スペーススクリアーにシートごと移動するシーンが見られた。本作では「合体」の代わりに「合身（がっしん）」という造語が生み出されている。「合体」と「変身」を組合せたもので、作品中では合体の意味で用いられている。これは「合体」を青島文化教材社が商標登録して使用できなかったため、ブルマックによって考案されたもので、以後、同社が提供スポンサーを務めた『合身戦隊メカonderロボ』や『小さなスーパーマン ガンバロン』にも、この造語が使用されている。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

<https://majingai.x.fc2.com>



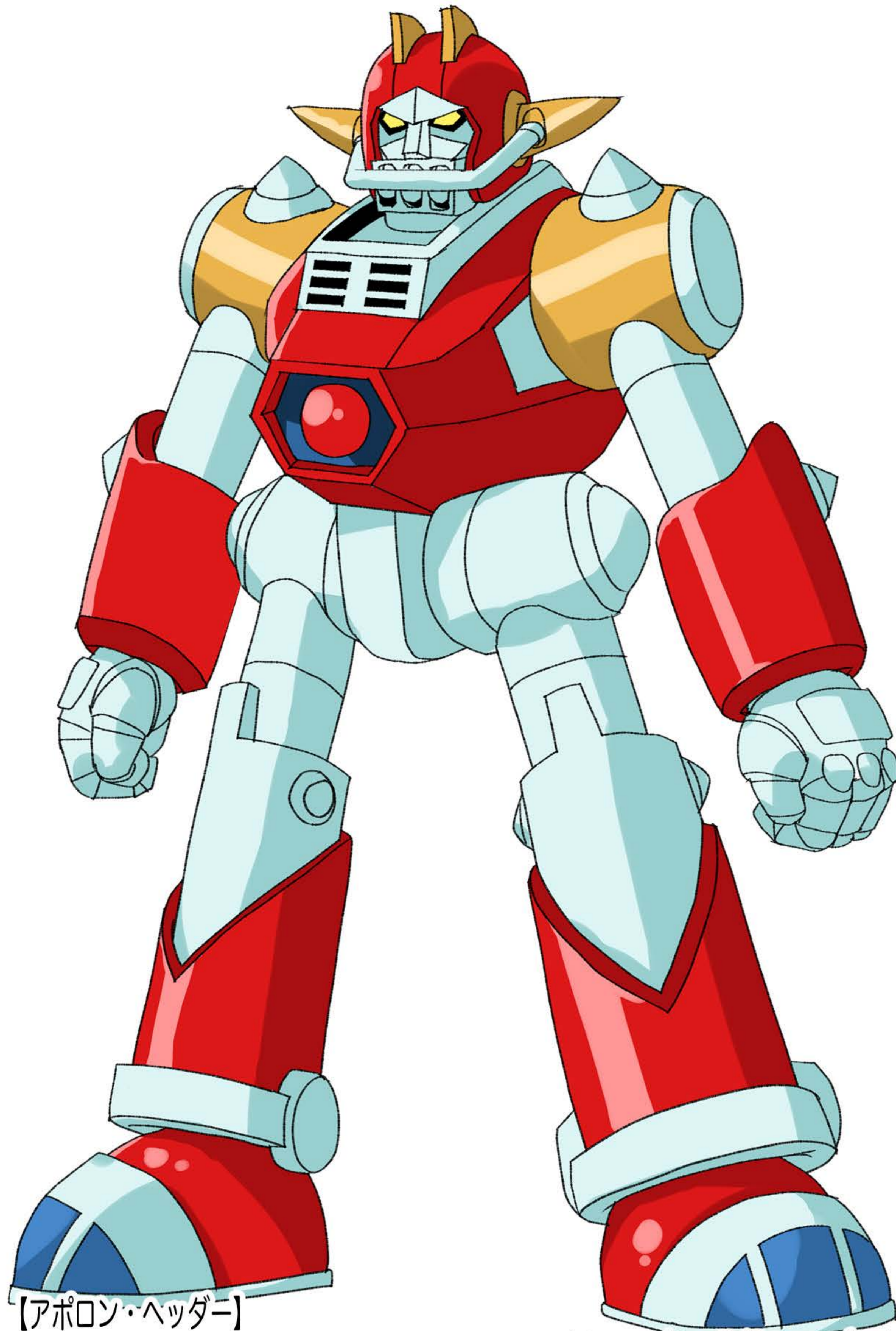
2022.03.01

【合身の条件】

ダイアポロンとタケシの体内にある、キー・エネルギーが一つにならなければ、超エネルギーを開放することはできない。合身者（キー・エネルギー所持者 = タケシ）は悪の心（傲慢や自信過剰など）を打ち払い、善き心を持たなければならない。悪の心を持つようなことがあれば、エネルギーに拒絶され、合身ができなくなる。合身者は心身ともに成長しなければならない。己が成長することにより、キー・エネルギーもそれに応え、様々な能力・武器が追加され進化する。キー・エネルギーは言わば成長・進化するエネルギーであり、タケシと共に成長することで、その力を無限大に発揮することが可能となる。

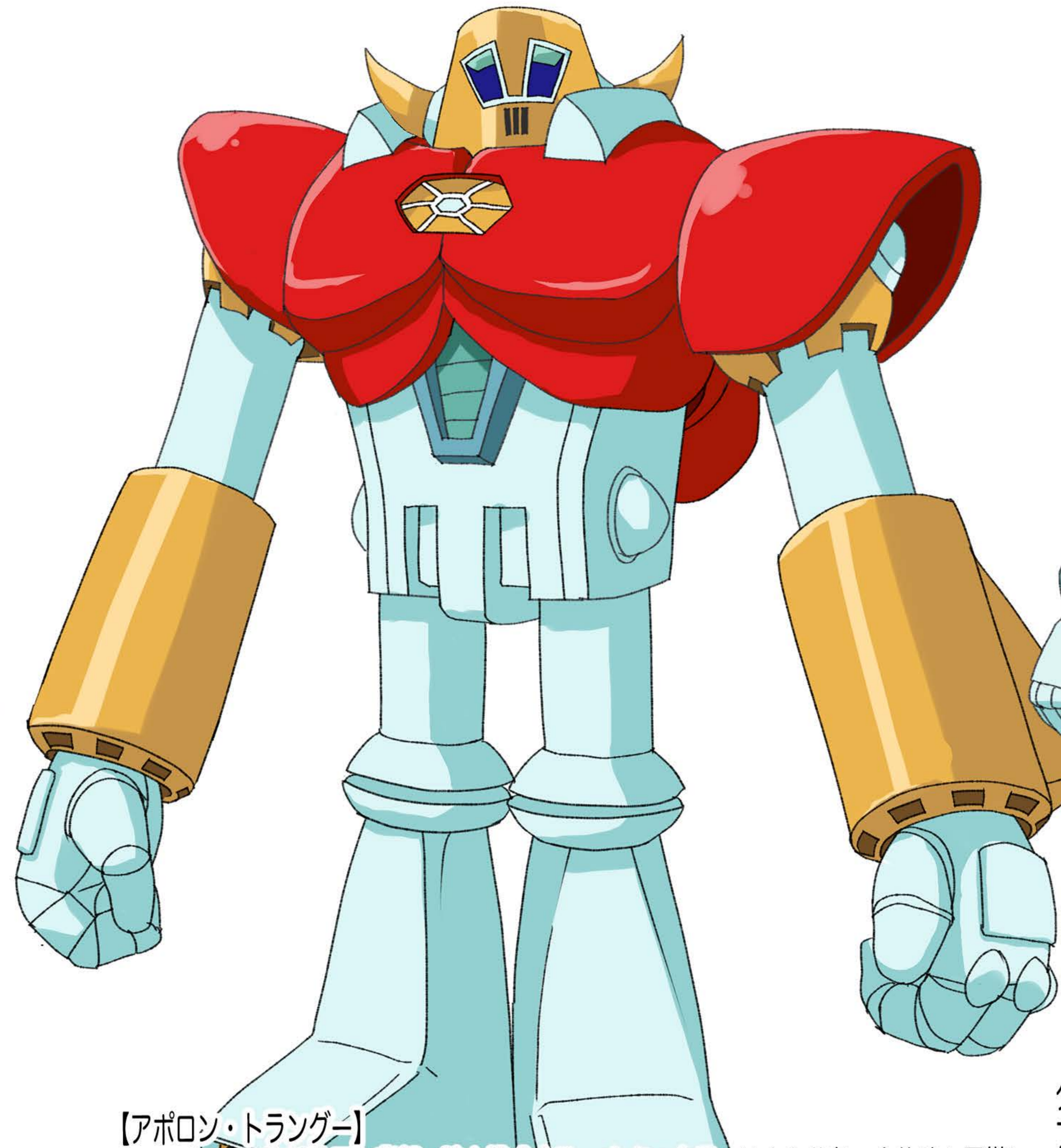
【アポロンロボ】

三体とも頭頂高 40m、重量 30t。ただし玩具や設定画では全高にばらつきが生じている。アポロン・トラングー、レッガーは当初無人で動いていたが、タケシの合身による負担を軽減するため、UFO少年団のメンバーが搭乗して、サポートすることになる。武装は合身後より使用できるものが限られるが、分離時でしか使用できない武器も存在する。搭乗するときは胸のエンブレムから体内に収納され、UFOを内部に固定した後にロボット用の操縦桿とモニターが出現、操縦する。



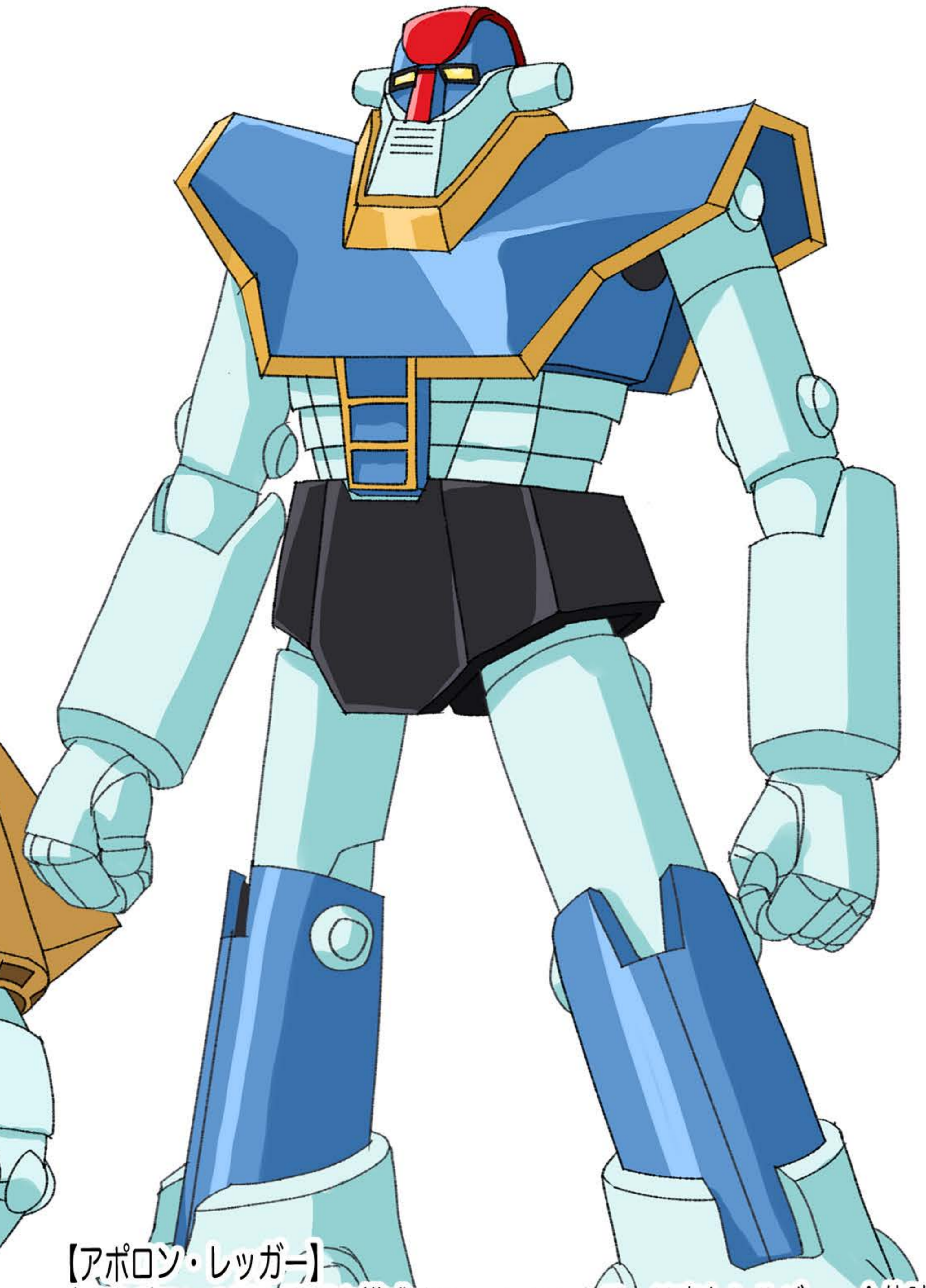
【アポロン・ヘッダー】

ダイアポロンの頭部と胸を構成する。メインカラーは赤とシルバー。胸部のエンブレムが開き、スペースクリアーが収納され、合身準備に入る。中盤からは合身の負担を減らすために、タケシがヘッダーを直接、操縦する場面も多く見られる。



【アポロン・トラングー】

ダイアポロンの胸部装甲と背部、腕を構成する。メインカラーは赤と黄色。合体時と同様にカッターソーサーを使う事が可能。20話からは主に五郎が搭乗して操縦するが、ミキが操縦することもある。胸部のエンブレムが開き、UFOが収納される。合身時には不要部分収納により、頭と下半身を収納する。ヘッダーがその後、トラングーを着込む様に合体する。



【アポロン・レッガー】

ダイアポロンの腰と脚部を構成する。メインカラーは青とシルバー。合体時と同様にブーメランカッターを使う事が可能。搭乗時は腹部の装甲が開き、UFOが収納される。20話からは主にミキが搭乗して操縦するが、五郎やヒデキが操縦することもある。不要部分収納の描写が腕部以外に無く、合身時には上半身が、いつの間にか消えている。なお、玩具版ではアニメで「不要部分収納」される合体に使用しない部分を組み合わせ、ダイアポロン以外に2体のロボットを組み立てることが可能なものが多い。

1976年 UFO戦士ダイアポロン

UFO戦士ダイアポロン

10周年

【UFO少年団】

【タケシ】声 - 村山明

主人公。UFO少年団のリーダー格。孤児院「あおぞら学園」で育つ。普段は学園で、五郎たちとアメフトのチームを組んでいる。16歳の誕生日に突然現れた、ラビに自分がアポロン星の王子「ダイアポロン」だと知らされる。最初は自身の力に慢心することもあり、そのために合身できなくなることもあった。しかし、成長するに従い、使命の重大さを知ることになる。赤ん坊の頃に生き別れた母親のクイーンアポロンが生きていて、ダザーン星に囚われていることを知り、激闘の末に奪還する。その後、滅亡の危機に追いつめられたダザーン星の苦境を理解して「エネルギー・ハート」を使い、ダザーン星を浄化した。赤いコスチュームを身に着けて、スペースクリアー号に乗り、アポロンヘッダーの内部に吸い込まれ、ダイアポロンへと合身することができる。戦闘コスチュームは赤で、背番号は10。

【五郎】声 - 山下啓介

通称「ごろやん」。大柄な体格で、チームでは切り込み隊長を担う。戦闘コスチュームは青で、背番号は66。

【松男】声 - 千々松幸子

通称「チョコ松」。チームのマスコットで、勇敢な少年。戦闘コスチュームは黄色で、背番号は22。まだ、幼さゆえに無茶な行動をしやすく、足を引っ張ったりさらに敵の策略に乗せられてダイアポロンを危機に陥ることがある。

【ヒデキ】声 - 小宮山清 (第2 - 26話)

通称「ハカセ」。ダイアポロンとダザーン軍団の戦闘で父を失い、孤児となり、「あおぞら学園」に転入して来た。ダイアポロンのエネルギー源を知らせ、危機を救ったことがきっかけで、UFO少年団に加入する。豊富な知識と才能を生かし、チームでは参謀役を担う。発明狂でもあり、ペンダント型の発信機を製作するなどの活躍も見せた。また、自分の作った機械を馬鹿にされると感情的になることもある。戦闘コスチュームは白で、背番号は99。

【スタッフ】

原作 - 雁屋哲、海堂りゅう (『銀河戦士アポロン』より (連載誌 - 『小学館学習雑誌』、『てれびくん』))

企画 - 桑田真菅 (東宝アド・センター)

プロデューサー - 渡辺米彦 (エイケン)、池田仁男 (東急エージェンシー)、忠隈昌、井上博 (以上、TBS)

キャラクターデザイン (作画設定) - 芦田豊雄

本作は芦田のキャラクターデザイナーデビュー作品。後に『ミンキーモモ』をきっかけに名前の露出が増えた芦田は、『月刊OUT』のロボットアニメ特集で、ダイアポロンが「ブサイクなロボットNo.1」(2位はレインボーセブン)に選ばれた際、芦田が本作のキャラクターデザインを手掛けたことをみんな☆なおにバラされ、「みんなには酒をおごってやったのに」と(誌面での演出上)怒り、以後は同誌でのペンネームを「ダイアポロン・カリスマ・芦田」と改名した。後に芦田が描き下ろしたOUT特製ポスターには、ミンキーモモやワタルと並び、タケシが描かれている。

メカニックデザイン - 高橋邦生

作画総監督 - 角田利隆

チーフディレクター - 小野辰雄

アートディレクター - 大隅敏弘

テクニカルディレクター - 高橋照治

制作協力 - アド・コスモ、アニメルーム、アートアニメスタジオ、他

制作 - エイケン、東急エージェンシー、TBS

<https://majingai.x.fc2.com>

【クイーンアポロン】声 - 増山江威子 (第24 - 26話)

アポロン星の女王で、タケシの実母。アポロン星がダザーン軍団の攻撃で滅ぼされた後は囚われの身となっていた。

【ミキ】声 - 小宮和枝

通称「ミキッペ」。チームの紅一点で、アニメヒロインとしては珍しい、ベリーショートヘアスタイル。変装して、敵基地に侵入するなどの行動を見せるときもある。戦闘コスチュームはピンクで、背番号は00。

2022.03.03

UFO戦士ダイアポロン

1976年

【ダザーン軍団】
 【ダザーン総統】声 - 杉田俊也
 ダザーン軍団の最高指導者。アポロン星を滅亡した後も、キー・エネルギーの秘密を知るタケシを狙い、地球に攻撃を仕掛ける。アポロン星に攻撃を仕掛けたのは環境破壊で滅亡寸前の母星を救うための苦渋の決断で、必要な超エネルギー装置「エネルギー・ハート」を奪うためである。宇宙征服を企む悪の帝王では無いが、兵器として利用できそうなマンモスに似た巨大生物を友達に持つ少年を騙し、少年に無断で巨大生物を改造して死に追いやるなどの自己中心的で好戦的な側面は否定できず、守るべき民衆にも犠牲を強いている。最期は、ダザーン星の浄化後炎上している宇宙船ともにその身を焼かれるという自業自得の結末を迎える。

【ギラニク】声 - 飯塚昭三
 ダザーン軍団 地球侵略本部の総司令官で、ダザーン総統の息子。実直な性格で、ダザーン総統の命令を忠実に実行する。第24話で、ダイアポロンとの戦いによる度重なる失敗と地球侵略本部基地が爆破された失態をダザーン総統に追及された結果、総司令の座をジョケツに明け渡した。終盤には戦いに疑問を抱くようになり、最後は父である総統の行動に反発し、炎上している宇宙船から、クイーンアポロンを解放するもダザーン総統に撃たれ死亡した。

【ヒドー】声 - 和久井節緒 (第1 - 20話)
 ダザーン軍団の隊長で、ギラニクの部下。猪突猛進な性格で、力押しの作戦を好む。ガメツとは反りが合わず、手柄を争い、いがみ合うことが多い。戦闘メカを自ら操縦して、ダイアポロンに戦いを挑む。般若面のような顔が特徴。第20話で、アポロン基地を発見して総攻撃を仕掛け、基地を奪うことに成功するが、アポロン・ヘッダー、トラングー、レッガーの三位一体 攻撃に敗れ、戦死した。

【ガメツ】声 - 城山知馨夫 (第4 - 23話)
 ダザーン軍団の将軍で、ギラニクの部下。ダイアポロンの為に地球侵略が順調に進まないことに怒った、ダザーン総統が地球侵略本部に派遣した。軍人の格好をしているのが特徴。冷酷かつ卑劣な性格。綿密で知略に長けた作戦を立て、合身前のアポロンロボの状態を狙うことが多い。ヒドーとは作戦の主義・主張が異なる為に仲が悪く、常にいがみ合っている。第23話で五郎を人質に取り、ダイアポロンに戦いを挑むが敗れ、戦死した。

【ジョケツ】声 - 沢田和子 (第22 - 26話)
 ダザーン軍団の女元帥で、ヒドーの妹。兄と違い露出度の高い美女の姿をしている。兄の仇を討つ為に、地球侵略本部へ派遣された。クイーンアポロンに変装するなど人間心理を突いた巧妙な戦法が得意。第26話で、メカ巨人ザ・ヘルに搭乗し戦うを挑むが敗れ、戦死した。

【バライ】声 - 沢りつお (第20 - 26話)
 ダザーン軍団の兵士で、ヒドーの部下。ヒドーの戦死後はジョケツの部下となる。ヒドーの仇を討つため、ダイアポロンに戦いを挑む。第26話で、ジョケツと共に戦死した。

【ナレーター】 - 市川治



話数	サブタイトル
1	合身!!悪魔軍団を倒せ!!
2	暗黒星雲から魔獣バグドラドン来襲!!
3	旅客機をのむメカ獣アンゴラ追撃!!
4	激闘!!サソリンガー対UFO少年団
5	鉄騎兵+円盤鉄人=破壊軍団
6	なぜだ!?合身できない!!
7	強襲!!カンガール・キックの嵐!!
8	メカ獣から小犬を助ける!
9	少年の笛に巨獣が泣いた
10	合身!!危機一髪!!
11	出た!!必殺デストロイの秘密
12	行くぞ!!友情のX攻撃
13	おいらの母ちゃんはアポロン星人!!
14	どうする!?氷結・絶体絶命!!
15	砕け!M作戦=大地震攻撃
16	潜入!!宇宙からの暗殺団!!
17	敵か!?味方か!?謎の星人現わる!!
18	処刑3秒前!!決死の救出作戦!!
19	UFO22!!秘密改造計画完了!!
20	ニューアポロン基地南極に浮上!!
21	がんばれ!!黒い太陽は13分だ!!
22	マコを救え!!敵中突破で一直線!!
23	突入せよ!敵陣ギルデラ火山発見!!
24	幻の母は鋼鉄獣にいた!!
25	すぐ行くぜ母さん!ダザーン星突入!!
26	母さんの涙が宇宙に平和を呼んだ!!